



Messages from Students

ホームステイ特集

タイムイングリッシュスクールでは、1984年より毎年アメリカでのホームステイを実施しておりました。コロナ禍で休止となり、4年振りとなる2023年度は春と夏に実施し、計55名の生徒さんが参加されました。今回のニュースレターは、今年そして過去の参加者12名の生徒さんによるメッセージの特集号です。

***** 4つの質問 *****

- ①なぜ参加しましたか
- ②ホストファミリーはどんな人でしたか
- ③英語は話せましたか
- ④ホームステイに参加して感じたことは



2023年 春(20名)



2023年 夏(35名)

2023年 夏参加

憧れ!

渡辺 莉音さん 神戸校 タイム歴9年
 関西学院高等部 1年



- ①今までずっとアメリカに憧れていたのと、自分の英語力を試してみたかったからです。
- ②とても優しい人たちでした！料理にはあまり期待しない方がいいと聞いていたけど、ホストマザーの作る料理は美味しく、ホストファーザーも色々な話を聞かせてくれました。ホストブラザーはアメリカンフットボールの練習であまり家にいなかったけど、ホストシスターとは『映画Barbie』と一緒に観に行きました。
- ③完璧ではなかったですが、伝えたいことは伝えることができました！相手も理解しようとしてくれ、難しいことはジェスチャーを交えて伝えました。
- ④たくさんの人と交流して、自分の視野が広がったと感じています。自分の英語力を自覚し、もっと頑張らなければならないと思いました。特に、相槌などのリアクションをどうとればいいかわからず、愛想笑いで済ましてしまって会話が終わるといことがありました。これは自分のポキャプラー不足だと思いましたし、これからは深い会話ができるように勉強していきたいです。

2023年 春・夏参加

挑戦!

辰巳 伶花さん 奈良校 タイム歴11年
 奈良育英中学校 2年



- ①一日中英語だけの生活をして、自分の英語力を伸ばしたかったから。夏も参加したのは、春のホームステイでは、あまりホストファミリーと話せなかったため。
- ②とても優しい方々でした。伝えたいことをうまく英語で表せないときに、質問や他の文章を作ったりして、分かるようにしてくれました。
- ③春は10日という短い期間だったので、すぐに10日たってしまい、あまり話せませんでした。夏は、はじめは緊張してうまく話せなかったけれど、すぐに慣れて、その日学校であったことなど色々話せるようになりました。
- ④自分の英語は間違っているかもしれないと1人で考え込むよりも、まずは挑戦してみることが大事だと思いました。その経験を踏まえて、知らない単語や熟語がたくさんあったので、もっと勉強しようと思いました。

2023年 夏参加

変わった!

塚本 航希くん 神戸校 タイム歴13年
 神戸大学附属中等教育学校 5年(高2)



- ①海外に一人で行ったことがなく、いいチャンスだと思いました。また、他のホームステイプログラムもあったけど期間が短かったのでこのプログラムにしました。プログラムが夏休みにあったのでラストチャンスだと思ったからです。
- ②とてもやさしくて面白い方たちでした。みんな気軽に話しかけてくれたり、日本では知れないようなことをいろいろ教えてもらいました。
- ③はじめはホストファミリーの話すスピードがかなり速くて何を言っているか聞き取れなかったです。だんだんスピードに慣れていったのかゆっくり話してくれたのか分からないけど、何を話しているか分かってきて会話に参加できるようになりました。なので英語はまあまあ話せたと思います。
- ④結構自分の考え方が変わったと思います。アメリカと日本ではいろんなことが全然違うので、知らないことに触れているいろいろ変わったと思います。あとは、アメリカは自由なことが結構多くて、日本ではできないようなことをいろいろできるのでやりたいことなどが増えていくと思います。そんなことが将来に影響したりするのかなと思います。

2023年 夏参加

諦めずに!

玉川 里利子さん 豊中校 タイム歴12年
 四天王寺高等学校 1年



- ①英語力やコミュニケーション能力を伸ばすため、日本とは大きく異なる文化に触れ様々な人の価値観や考え方を学ぶためです。また、周りの目を気にして空気を読んでばかりで自分の意見をしっかり言えないことが多かったため、そんな自分を変えたいと思ったからです。
- ②とても優しく、笑顔が素敵な家族でした。町のことやモルモン教のことなどを多く教えてくれたり、料理やショッピングに積極的に声をかけてくれたり、スポーツやドライブなどにも誘ってくれて、快適に過ごすことができるように気にかけてくれました。リードしてくれることが多かったのですが、私の意志も尊重してくれて、一緒にいてとても楽しくかけがえのない存在でした。
- ③初めは緊張していて、できるだけ間違わないように文章を組み立てて話していたり、自ら進んで会話に入ることが少なかったが、だんだん砕けた表現で話せるようになったり、ホストファミリーやESLの先生が使っていた言い回しも会話の中で使えるようになりました。基本的に自分の話した英語は相手に伝わっていました。
- ④英語で話す時、間違えることや適切な単語が思い浮かばないからといって、話すことを諦めるのはとてももったいないと思いました。間違っていれば、ホストファミリーに正しい言い方を教えてもらったり単語が思い出せなかったら他の言葉を使って説明すればいいし、色々方法はあるので積極的に英語で話すことが大切だと思いました。英語での生活は楽しかったです。

2023年 夏参加

宝物!

村上 絢音さん 神戸校 タイム歴10年
 神戸女学院中学部 2年



- ①最初は夏休みは部活や夏期講習もあるため、あまり乗り気ではなく、親に勧められて準備に入ったのですが、オリエンテーションに参加したり、参加するメンバーとホームステイについて話すようになると、徐々に「とにかく行ってみるか！なんか面白そうやし！」と思うようになりました。もちろん不安もありましたが、オリエンテーションを重ねるにつれて、どんどん楽しさになっていきました。
- ②本当に優しいご家族でした。ホストファミリーのお父さんとお母さんは、言葉では言い表せないほど私を大切にしてくださり、気にかけてくれました。とても感謝しています。2歳と4歳のお子さんとても可愛く、たくさん一緒に遊びました。いろんなところに連れて行っていただき、感謝と思い出でいっぱいです。
- ③コミュニケーションを取るにはほとんど困りませんでした。それは、私に英語力が特別あるというわけではなく、文法が整ってなくても、単語がわからなくても、現地の方がとても優しいので、ゆっくり話してくれますし、わからなければ話し方を変えてわかるように話してくれ、私の英語も一生懸命聞き取ろうとしてくれます。だから、楽しく会話ができました。会話ができるようになると、リスニング力がついてきます。英語の発音などは丁寧に教えてくれました。
- ④海外旅行に4回行ってたので、海外に行くことへの不安はあまりなかったのですが、家族と離れて1か月近くも海外で暮らすことができるのかなと、不安な気持ちでした。でも、実際に行ってみたら、本当に毎日が楽しくて、先生に日本に帰りたくないと思わずに少し黙々とこなすことができました。(笑)。一緒に行ったメンバーとは、ホームステイ中の悩みや不安を共有しつつ、楽しい海外生活を送れたので、とても仲良くなりました。苦労を共にしたことは大きいです。何よりも、一生忘れられない貴重な思い出を作ることができました。これは私の宝物です。帰国後、リスニング力が上達した実感があります。タイムのホームステイは、参加して得すること100%、損すること0%です！本当に心からお勧めします！皆さんもぜひホームステイに行ってみて下さい！！

裏面には今年の春の参加者、そして過去に参加して現在も継続されている生徒さん、さらにはホームステイを経験し、その後海外進学・留学した生徒さんのメッセージ!

2023年
春参加

忘れない!

竹市 悠真くん 豊中校 タイム歴12年
灘高等学校 3年

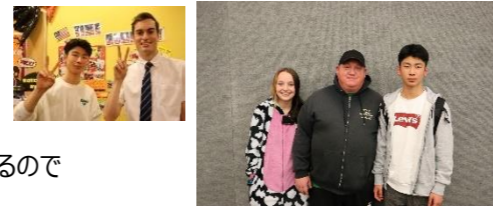


- ①海外大学に進学することを考えていたため、「実用的な」英語を運用する機会を得たかったから。
- ②とても良かったです。ホストファミリーの方が日本に滞在したことがあったため、お好み焼きをふるまってくれたのがいい思い出です。
- ③日常生活において意思疎通可能な程度は話しましたが、英語のジョークであったり、ニュースだったりはかなりちんぷんかんぷんでした。
- ④10日間という長いようで短い行程が終わり、日本に帰ってふと思い返すとアメリカの青々と澄んだ空や、ホストファミリーと過ごした濃密な異国の地での体験を思い出します。ディクシーロックから一望したセントジョージの街並みや帰宅途中に見たオリオン座の美しさ等々、ホストファミリーそして友人たちと過ごした日々は忘れられないものとなりました。言語能力の向上ができただけでなく、一生涯忘れられない体験ができた10日間でした。

2023年
春参加

リアル!

北野 智也くん 神戸校 タイム歴5年
神戸学院大学附属高等学校 1年



- ①学生の中に海外での生活や現地の空気感に触れることが今後の人生の中で確実に役に立つだろうと思い参加しました。同時に英語力も身につけたかったことや、高校になると忙しくなるので中学の間に行っておきたかったことも理由の一つです。
- ②ホストファミリーは、6人家族でとても明るい人たちでした。普段通りの生活を保ってくれたので、リアルな生活を経験できました。
- ③初めは自信がなく、ほとんど話せませんでした。ホストファミリーとも何を話せばいいのかわからず、話を振られても答え方がわからない状況でした。話すスピードもとても速く理解するのが難しかったのですが、日が経つにつれて、少しずつ慣れていき、授業でも大まかな内容は理解できるようになりました。話す面でも、何か行動を起こすしかない状況だったので、単語を並べて伝えていると、相手が伝えたかったことを言い換えてくれたりするなかで、どのように言うのか学ぶことができました。最終的には対等に話すことができ、空港や機内アナウンスは簡単に聞かれるまでになりました。
- ④とてもよかったです!最初は全くと言っていいほど自信がありませんでしたが、このホームステイを通して、日本じゃできない様々な経験をし、現地の生活に触れることで、日本とは違う考え方や見方があることなど、本当に多くのことを学びました。自信をもって英語を話すようになり、出発前の不安は、とても大きな自信になっていました。本当にホームステイに行けて良かったと思っています。

2019年
夏参加

勇気!

稲垣 遙くん 奈良校 タイム歴14年
京都府立鳥羽高校グローバル科 2年



- ①小さい頃から海外に興味があり、当時は中学1年生で、親はもう少し後でもいいんじゃないかと言いましたが、僕の希望とタイムの先生の後押しもあって、行くことになりました。行くことが決定した時は、期待と緊張が入り混じっていました。
- ②到着した時、緊張でいっぱい僕に対して、笑顔で温かく迎え入れてくれました。会話をする時も、いつも笑顔で明るく接してくれ、英語で分からない所があって辞書で調べる時も一緒に調べてくれたり、みんなで映画を見たりなど、本当の家族のように接してくれました。
- ③当時は英検も持っていなかったのですが、お世辞にも話せる方ではありませんでしたが、タイムの友達と2人でのホームステイでしだし、辞書を使い、思いつく単語で伝えるだけでも汲み取ってくれるので、そこまで苦労はしませんでした。
- ④元々性格は内気な方だったのですが、現地の人達は明るい人達が多かったので、その中で生活していく内に、自分を表現する方法を覚え、以降は人前で緊張することは少なくなりました。また、伝えようとする大切さを感じました。分からないからといって黙っているのは、誰にも気持ちは伝わりません。身振り手振りでも分かる単語だけでもいいので、とにかく伝えようと努力することで、相手も分かろうとしてくれるので、臆さず勇気を持つことで、自分の英語力も表現力も上がっていきと思いました。

2016年
夏参加

安心!

木戸 美潤さん 神戸校 タイム歴15年
近畿大学文芸学部 3回生



- ①幼い頃からタイムに通っていて、いつかは留学に行ってみたくて考えていました。なかなか行くチャンスがなかったのですがタイムでホームステイができると知り、慣れ親しんだスタッフの方々も同行して下さるということだったので、安心して参加することができました。
- ②お父さん、お母さん、男の子の兄弟2人の4人家族でした。若いお母さんだったので、友達のような感覚でたくさん話しました。男の子たちとも楽しく一緒に遊びました。
- ③少しずつ話せるようになりました。短い期間でしたが、ホストファミリーや学校の先生たちと話すことで日常的に英語を話す機会を増やすことができました。
- ④参加してよかったと思います。初めての海外での生活でしたが、ホストファミリーとタイムのスタッフの方々のおかげで貴重な経験ができました。帰国後は、より英語を話すことが楽しくなり、自分でも英語力が上がったことが感じられました。

2014年
夏参加

自信!

中島 佳奈さん 豊中校 タイム歴15年
中学校英語教師



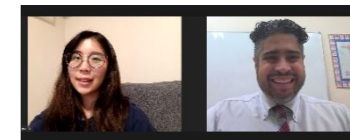
- ①まさか高1で自分が行くとは思わず、ロビーのポスターを見て「いつか行きたいな・・・」という一言から、タイムと親の後押しにより、行くことになってしまいました(笑)。その後押しに今は感謝しています。
 - ②5人家族で3人子供がいて3歳の子といつも遊んでいました。とってもかわいく、元気な子だったので、朝からはそのテンションについていけず、部屋に勝手に入って来ないよう私の部屋にカギを付けてもらいました...(笑)。
 - ③なんとなく自分の言いたいことは伝えられましたが、ペラペラというわけでもなく、自分の英語に自信はありませんでした。
 - ④ホームステイに行く前は、学校の教室で英語を話すことが恥ずかしく、わざとカタカナ英語で話していましたが、ホームステイに行ったら、もっと英語を話せるようになりたいと思い、積極的に英語を話すようになりました。また、親元から離れて約1カ月過ごし、少し自分に自信を持って生きていけるようになったと思います。
- 今、私は中学校で英語の教師をしています。英語でコミュニケーションを取ることの楽しさを伝えたいという気持ちで今の職に就きました。そのような気持ちを抱いたきっかけはタイムで学んだことであり、その中で行ったホームステイは私の人生の大きなハイライトとなっています。授業でホームステイの経験を私の生徒に話すこともあります。色々な子供たちにこの素敵な経験をしてほしいです。

ホームステイを経験して海外大学進学・留学

①なぜ留学を決めましたか②留学した国はどこですか③期間はどれくらいでしたか④困ったことはありましたか⑤留学して感じたことは

2005年
2006年
2008年
夏参加

柔軟性!



金尻 夏実さん 豊中校 タイム歴25年
ペンシルベニア州立大学農学部 卒業

- ①農業やその物流に興味があり、日本の大学への進学も検討しましたが、自身が学びたい分野に100%該当する学部学科が少ないという理由で、日本以外の大学進学を考えるようになりました。
- ②アメリカ ペンシルベニア州 ③2014年6月~2018年6月
- ④成績の維持と遊びの両立です。意外にもアメリカは日本よりも学歴社会のように感じています。良い成績を維持しないと受けない授業を取れない、入りたい会社にエントリーできない、という足切りが多いです。一方で友達との週末のお出掛けやパーティーはとても楽しく、そのうえ英語の上達にもつながるので、参加は欠かせませんでした。思いつき勉強して思いつき遊ぶ、という切り替えに最初は戸惑ってしまい、慣れるのに苦労しました。
- ⑤自分の考え方に柔軟性が生まれたことです。日本では異なる価値観といえど、同じ文化を共有しているため似通った価値観を持っている人が多いと思います。一方、留学先では留学生や現地の人など、さまざまなバックグラウンドを持った人たちと会話する機会があります。文化、教育、宗教が異なるので物事のよし悪しや重要視することなどに考え方の多様性が生まれます。そのため、これまでの私の価値観や考え方を何度も考え直さないとけない機会が発生しました。しかし考え直すたびに「絶対こうならなければいけない」という固い考え方が、「こういう場合はこっちの方が良いかも」と柔軟になり、ケースバイケースで物事を考えるようになってきます。現在シンクタンク・コンサルティング系企業にて官公庁におけるインパクト投資関連の政策づくりに携わっています。長期的に将来を見据えながら、より良い日本を作るためにはどんなことが今必要なのかについて、留学中に培った柔軟性を活かしながら考えていきたいと思っています。

2018年
2019年
夏参加

ツール!



永田 弥英さん 神戸校 タイム歴9年
立命館アジア太平洋大学(APU) 3回生

- ①中学・高校の時のニュージーランドとタイムのアメリカホームステイを通して長期間海外に滞在したいと感じた。英語力をさらに磨くこと、マイノリティな環境で学び、何が見えてくるか知ることが主な目的だった。
- ②スウェーデン スtockホルム近郊
- ③10ヶ月間
- ④英語に関してはある程度話せていたため言語的な問題はなかった。ただ、留学生のコミュニティの中での壁を感じる場面が多かった。フランスやドイツ、スペインからきた留学生はそれぞれの国でコミュニティを形成し、彼らの休日の過ごし方や旅行スタイルがアジアとは異なっていたため、彼らとの距離を縮めることに苦戦した。授業のグループワークやカフェやレストランに食事に行ったことで少しずつ仲良くなり、パーティーやクラブで遊ぶ文化には適応できなかったが、湖のそばで読書しながら時間を過ごしたり、家族や友人との時間を大切にしたりする姿を見て、私生活をいかに充実させるか、そしてそれがどれほど大切かを学ぶことができた。
- ⑤英語は単なる一つのツールにすぎないということ。日本を出れば英語が公用語として使用されている国は数多くあり、ヨーロッパではほぼ全ての国で英語が使われている。ヨーロッパでは日本語が通じるはずもなく、英語を話せるのは当たり前でありバイリンガルであるからといって特別扱いされることは一切なかった。このことから英語だけを頼りに将来の計画を立てるのではなく、英語以外に軸を持ち、英語はあくまでも一つの手段として持っておくものだという認識が変わった。

